

27年3月議会

市長の意識について

質問

市長ね、次、市長の意識についてに関連して、先ほどのこととつなげて伺いたいんですけども、まちを元気についていうことをよくおっしゃってて、そのうちの一つ的手段として、万博周辺の問題があると思うんですよね。道路公園やまち産とも、恐らく意見交換はされてるんだろうと思うんですけども、ビジョン、市長のビジョン、描いてるビジョン、その万博周辺のにぎわい活性っていうのを市内に広げていこうっていうことに当たって、市長が考えるビジョンっていうのを一度お聞かせいただけますか。

中江理晶まち産業活性部長

市長にとのことでございますが、まず、担当の私のほうから1点、御答弁させていただきます。

今現在、観光ビジョンを持っておりますけれども、現在の観光ビジョンにつきましては、市民の市民による市民のための観光というのがフレーズとして上がっておりますけれども、今後は観光センターを移転をさせることもございますので、このビジョンについて、外からの誘客も図れるようなビジョンに見直しをしたいということで、平成27年度、この観光センターがオープンをする時期に合わせまして、そういうビジョンの改定を目指して取り組んでおるところでございます。

以上でございます。

井上哲也市長

万博南側エリアの開発、御指摘いただいておりますエキスポランドの跡地、1,700万人の方がお見えになります。そして、スタジアムですね、吹田市立サッカースタジアムです。これは4万人の収容のスタジアムということで、まず、私は元気というのは、人、物、金、情報が吹田以外から寄ってくる、そのことが非常に大事だという意味では、非常にこの二つの施設はポテンシャルがあるということは御承知していただいていると思います。

そして、その方たち、来ていただいた方をどう吹田市内に回遊するか、先ほど観光ビジョンということで担当部長が申し上げましたとおり、そういったことをどう生かすか、それは吹田市の都市魅力を発信していかなければいけないということで、観光センターをエキスポランドの跡地に持っていくということで、この前、議案を通していただきました。

そして、その観光センターで、吹田市の都市魅力、先ほどリオちゃんとか、みつめあう愛ですか、そういったことを、吹田市のこういったことの魅力があるんですよと発信をさせていただいて、吹田にもう一度来ていただけるような取り組みもさせていただく、そしてさらにはですね、吹田ブランドっていうんですか、いろんな農産物もありますし、いろん

な商品もあります。そういったこともですね、これからつくらせていただいて、吹田ってこんなすばらしいところですよと、そういったこともこの観光センターで発信をさせていただいて、よそから多くの方に来ていただいて、吹田ににぎわいを持ってくると、そういったことが私の考え方です。

質問

買い物に行った方が観光センターに行かれて、市の魅力を知ってまた吹田に来たいっていう、何かこう、やっぱりイメージが湧かないんですよね。全然わからないと思って。そもそもニーズないところにね、ニーズを生み出していくっていう非常に難しいことをされるのに、その難しいことをやるのに、やるのが何か非常にね、ありきたりというか。いや、大事なことですよ、市内の魅力を発信することは大事だけれども、本当にそのニーズを生み出すためには、そんなことで大丈夫ですかって思うんですよ。僕はわかんないから、市長にね、ビジョンを聞いたんですよ。

僕はね、万博で完結しちゃうと思うんですよね。あの周辺で完結しちゃうけど、それを何とかひっばっていこうっていうことが市長の方針でしょう。ただ、それね、例えば公共交通で、バスとかをね、じゃあ、どこに持っていくかとか、そういう話もちろんあるだろうし、そこに予算をかけていくのかとかというのものもあるけども、何かそういう具体的な話が全然出ないのが残念だなと思うんです。

それでね、今回市長の意識ということなので、ほかにもいろいろ聞かせていただきたいんですけども、例えば教育の維新。いろいろね、事業をやっていただいて、市長がおっしゃってるのは放課後学習のことであるとかね、あとはタブレット導入であるとか、いろいろ言っておられる、あと英語教育ですとかいろいろおっしゃってるのはいいんです、その具体的な施策はいいんですけども、そもそも教育の維新って立ち上げたときに、市長が市長になれる前、井上さんが市長になれる前の吹田市の教育はどうで、市長になっている展開したらこうなったみたいな。そういう教育のことなんでね、すごい長い時間はかかりますけども、何のためにそれをやっているのかっていうのを、ぜひ聞かせていただきたいなと思います。

井上哲也市長

教育の維新、一番最初、いろいろ議論し、この4年間いろいろしていただいて、まず、人事権の移譲もありましたけども、これも吹田市のことを思っていただけの職員、教職員に来ていただきたいということを表に出させていただいて、放課後学習はですね、学力を向上するために放課後学習、これは塾の先生って最初は申し上げていたんですが、それはですね、やっぱり塾の先生は大学生とかがアルバイトでされているということで、大学との連携をさせていただいて、学生の皆さんに来ていただくとか、教員のOBの皆さんに来ていただいて、放課後学習をさせていただいて、それが1校からだんだんふえているのが今

の現状ですけれども、そういった取り組みをする中で、やっぱり吹田の子供さんたちが学習意欲、自学自習力と教育委員会はおっしゃってますが、学習意欲を持っていただくことが大事でありますし、厳しい世の中を勝ち抜く人間力の向上を図っていただくための取り組みをしていただくというのが私の考え方です。

質問

今ね、もうちょっと抽象的な話を伺ったんですけど、具体的な施策の中で言っておられる割には、そういうことをおっしゃる割には、全然予算的なこともかけておられないと思うので、何かどうなのかなという、非常に何かそういうね、抽象的な話ね、もっと根本的なとか哲学的なとかね、思想的な部分で話を聞いても、何か目の前のことばかりおっしゃるので、ちょっとやはりわからないです。

もう1点、今回選挙が近いので、選挙のことについて聞くんですけども、前回の市長選挙、市議会議員選挙、投票率が49.71%だったんですよ。この数値については、市長、どのように考えられますか。また、若年者投票率の低さについてはどのような問題意識をお持ちでしょうか。

井上哲也市長

投票率は高ければ高いほうがいいと思いますし、49.71%は、これまでの統一地方選挙の、恐らく私の記憶の中では高かったのではないかと考えていますけど、そのことの評価じゃなくて、やっぱり投票率は高いほうがいいと思いますし、若年層の投票率が低いというのは、やはり世代間格差の行政のあり方が一つの問題ではないかなと思っています。

質問

問題意識を持っておられるということなんですけど、二人に一人、投票に行かないということは、ちょっと正常な民主主義社会を形成するに当たっては、非常に問題だと私、考えております。どうすれば投票率は上がるんだろうなと考えている中で、その手法の一つとしてね、2年前ですかね、選挙期間中に選挙をもっと意識していただくために、期日前投票所のさらなる設置を提案いたしました。豊中では大阪大学に設置、西宮ではららぽーとで設置と、近隣他市でも進んできております。このような他の事業者との連携は市長が積極的意思を持てば非常に進むのかなと思うんですけども、投票率は高いほうがいいよっていう問題意識を持ちながらも、この4年間、期日前投票所について全く進まなかった理由は何ででしょうか。

井上哲也市長

期日前投票所につきましては、まずこの本庁がですね、選管にあったことが、玄関に持っていったことが一つ、そして、場所はですね、南千里に一つ追加したことも一つでございます。

ますので、全くしてないというのは御指摘とは違います。

質問

いや、今、期日前投票所ね、阪急沿線にしかないんですよ。JRとかね、北大阪急行とかっていう点は前回させていただいて、なるべく人通りが多いところっていうふうな提案もさせていただいたんですよ。今回はもう大学生対象に大阪大学とか、ショッピングを目的の方たちに、選挙をそこでできるっていうことで、投票率を向上させようっていう他市の取り組みをね、挙げさせていただいたんですけども、その点についてはどのようにお考えですか。

井上哲也市長

まず、何もしてないという御指摘の中で、先ほど御答弁申し上げました。そして、大阪大学は、今御指摘いただくと、非常に便利の悪いところにありますけども、JR沿線、さらには阪急の京都線沿線であれば、さらに御指摘をいただいたら、検討をさせていただきたいと思います。

意見

検討していただくこうにもね、任期がもう終わりですので、検討していただきづらいなと思うんですけども。

4年間ね、市長といろいろ議論をさせていただいて、非常にかみ合わない部分があって、市民の意見はこうですよっていうことをね、どれだけ伝えても、やはりね、そういう対応をしていただけないっていう非常に歯がゆい思いをいたしました。

今回ね、吹田新選会としては、先ほど挙げていただきましたけども、問題意識をね、なるべく若年者に広げていって、より吹田をね、20年、30年後もよりよいまちにするように努力していきますので、今後ともよろしく願いいたします。

以上で質問を終わります。